続々・白糠のアイヌ語地名

庶路川筋のアイヌ語地名

第５回

○オレウケナイ

「オレウケナイ」は、中庶路地区で庶路川から東へ分かれて北上する川の名前で、「オ（川尻）・レウケ（曲がっている）・ナィ（川）」という意味があります。

この地名は、「ヤリキレナイ」（由仁町）、「アイノナイ」（北見市）などともに珍地名として取り上げられ、何度か取材を受けたことがあります。関西のラジオ局からは、白糠のアイヌ文化を含めて番組で紹介したいとの依頼があり、白糠アイヌ文化保存会の磯部会長に電話出演をお願いしたこともありました。

○シリクロチ

「シリクロチ」は、新興地区で庶路川から西の方向へ向かっている川です。その訳について、白糠地名研究会は「シリ（山）・クル（近く）・チ（ずっと）」という意味から、「山に近くずっと流れている川」としています。また、永田方正は『北海道蝦夷語地名解』で「山陰」と訳していて、これは「クル」の意味を「影、陰」と解釈したことによるものです。

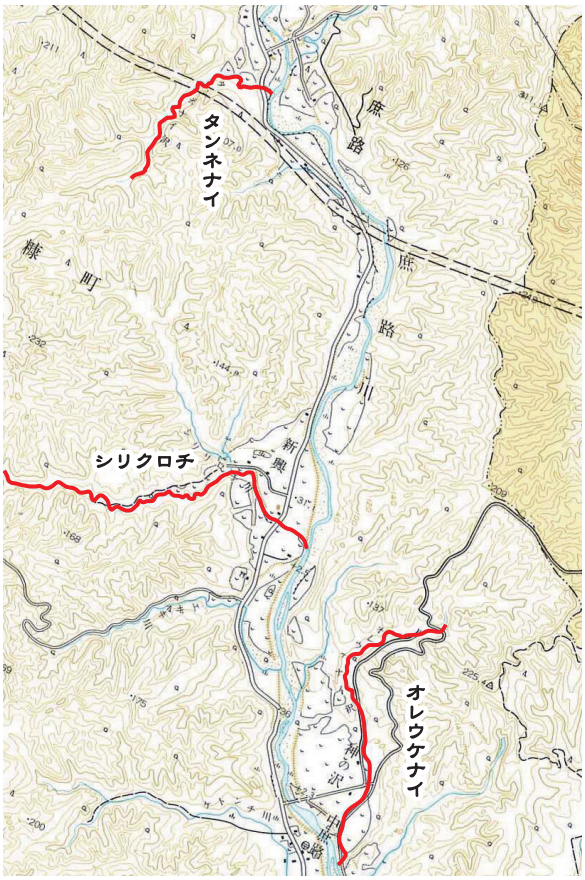
○タンネナイ

「タンネナイ」は、3月12日に開通1周年を迎える道東自動車道庶路インターチェンジから、約1・5キロメートルほど北で、庶路川から西に分かれ南へと向かう川です。「タンネ（長い）・ナィ（沢）」という意味があります。

■川は海から発して山へ行く者

言語学者の知里真志保博士は、『アイヌ語入門～とくに地名研究者のために』という著書で、川に対する古いアイヌの考え方を紹介しています。

博士は、「われわれの考えからすれば、川は山に発して海へ入るものであるが、アイヌの古い考え方に従えば、それとは全く反対に、川は海から発して山へ行く者なのである」と述べ、「アイヌはもともと海岸線に沿うて、川のそばに点々と部落をつくっていた。そして、内陸の交通は主として川によったのである。部落の近くを流れている川をさかのぼって、サケやマスの類をとったり、クマやシカをとったりして暮らしていたところから、そういう生活に即して、川は海からさかのぼって山へ行くもの、という考えが自然に生まれてきたのであろう」と説いています。

「チャロ（川口）」が内陸への入り口を表すこと、「庶路」が「ソ・オロ・ル（滝へ向かっている道）」を意味することからも、この考えが地名の中に生きていることがわかります。

【引用／『知里真志保著作集４』アイヌ語研究編「アイヌ語入門～とくに地名研究者のために」】